

報道関係各位
プレスリリース

配信日：2026年11月6日
発信元：気候影響チェックアップ（CIC）ツール対面研修 実行委員会

（共催：ヘルスケア・ウィズアウト・ハーム東南アジア、特定非営利活動法人 日本医療政策機構、一般社団法人 みどりのドクターズ、一般社団法人 日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会、総合地球環境学研究所、持続可能な社会を共創する大学等コアリション、伯鳳会グループ／会場提供：社会福祉法人あそか会 あそか病院）

全国の基幹28病院が東京に結集、医療機関特化型温室効果ガス算定「CICツール」対面実践研修を初開催

～世界のGHG排出量の約5%を占める医療業界の脱炭素化へ、COP30「ベレン保健行動計画」と国のネット・ゼロ戦略を臨床現場から具現化～

【要旨】

国際環境NGOヘルスケア・ウィズアウト・ハーム東南アジア（HCWH SEA）、特定非営利活動法人 日本医療政策機構（HGPI）、一般社団法人 みどりのドクターズ、一般社団法人 日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会、総合地球環境学研究所（RIHN）、持続可能な社会を共創する大学等コアリション、および伯鳳会グループで構成する実行委員会は、2026年11月22日（日）から23日（月・祝）の2日間にわたり、社会福祉法人あそか会 あそか病院（東京都江東区）において、医療機関特化型温室効果ガス（GHG）排出量算定ツールを用いた実践研修**「目標から実践へ：日本の医療をグリーン化する――気候影響チェックアップ（CIC）ツール対面トレーニング」**を開催いたします。

本研修には、日本赤十字社傘下の主要病院、岡山大学病院、社会医療法人祥和会 脳神経センター大田記念病院、伯鳳会グループ全11病院をはじめ、全国から28病院・約40名の実務責任者（病院長、事務長、施設管理・調達・医療技術部門責任者等）が参加します。
医薬品調達、医療廃棄物など、医療現場特有の排出源を網羅した国際標準「CICツール」を活用し、各病院の実データに基づいた排出量インベントリの確定と、具体的かつ実行可能な削減行動計画を策定します。

つきましては、研修初日となる**11月22日（日）午前（09:00〜12:00）の式典および算定実習セッションを報道関係者の皆様に公開**いたします。医療の持続可能性と国家戦略が交差する現場の最前線を、ぜひご取材賜りますようご案内申し上げます。

本件のポイント

- **医療脱炭素を巡る国際公約および国家戦略の具現化**
  世界のGHG排出量の約5%を占める保健医療分野において、厚生労働省のATACH参加合意、政府の「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2025年改訂版」、およびCOP30「ベレン保健行動計画」に直結する国内初の大規模な現場実装プログラムです。

- **全国28病院・約40名の実務責任者が自院の実データを持ち寄り協働演習**
  赤十字病院、大学病院、民間医療法人の実務幹部が一堂に会し、Scope 1（ボイラーなど）、Scope 2（購入電力など）、Scope 3（医薬品・単回使用医療資材のサプライチェーン、医療廃棄物、職員通勤等）を網羅的に算定・可視化します。

- **実測インベントリから政策提言書策定・国際発信へ接続**
  本研修で蓄積される精緻な実測データをもとに、HGPIおよび協議会が共同で政策提言書を策定し関係省庁へ申し入れを行うとともに、2027年に東京で開催予定の「プラネタリーヘルス国際会議（PHAM 2027）」にて学術成果を発信します。

社会的背景と医療界が直面する構造的課題

人命と健康を守る使命を担う医療・介護業界は、生命維持装置や大型画像診断装置（MRI・CT等）の稼働、院内感染防止のためのディスポーザブル（使い捨て）資材の大量消費などにより、膨大なエネルギーと資源を消費しています。その結果生じる温室効果ガスが気候変動を加速させ、熱中症や心肺疾患、感染症の拡大という形で人々の健康を脅かすという「健康被害の二重構造」が生じています。
こうした課題に対し、国際社会ではWHOを中心に医療システムの脱炭素化が推進されており、日本国内においても2024年度より医学教育モデル・コア・カリキュラムに「気候変動と医療」が必修化されるなど、環境リテラシーへの要請が高まっています。しかし、臨床現場では「何から算定し、どう削減計画に落とし込むべきか」という具体的なノウハウが不足していました。本研修は、こうした現場の障壁を打破し、国際標準の算定手法を日本の医療環境に定着させるための実践的契機となります。



開催概要

- **プログラム名称：**
  目標から実践へ：日本の医療をグリーン化する
  気候影響チェックアップ（CIC）ツール対面トレーニング

- **開催日時：**
  - 1日目：2026年11月22日（日）09:00〜17:00（報道受付 08:30〜）
  - 2日目：2026年11月23日（月・祝）08:15〜14:15

- **会場：** 社会福祉法人あそか会 あそか病院 南館1階 研修会場
  - 〒135-0002 東京都江東区住吉1-18-1
    都営新宿線・東京メトロ半蔵門線「住吉駅」A1出口より徒歩約5分／JR総武線「錦糸町駅」南口より徒歩約15分

- **参加者：**
  全国の基幹病院・医療法人 実務責任者 約40名（全国28病院・事前登録制・満席締切）

- **使用言語：** 日本語・英語（多言語AI翻訳システム「Wordly」による同時通訳を提供）

- **共催団体：**
  - ヘルスケア・ウィズアウト・ハーム東南アジア（HCWH SEA）
  - 特定非営利活動法人 日本医療政策機構（HGPI）
  - 一般社団法人 みどりのドクターズ
  - 一般社団法人 日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会
  - 総合地球環境学研究所（RIHN）
  - 持続可能な社会を共創する大学等コアリション
  - 伯鳳会グループ

- **会場提供：** 社会福祉法人あそか会 あそか病院
  【研修会場外観】あそか病院南館（東京都江東区）



主なプログラム構成

時間	セッション内容	主な登壇者・担当
【1日目】11月22日（日）		
08:30–09:00	報道関係者・参加者受付	運営事務局
09:00–09:05	歓迎挨拶	田中 一正 氏（社会福祉法人あそか会 あそか病院 院長）
09:05–09:10	開会挨拶	古城 資久 氏（一般社団法人日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会 代表理事／伯鳳会グループ 理事長）
09:10–09:20	キックオフメッセージ	西澤 忠彦 氏（日本赤十字社 医療事業推進本部 財務管理部長 兼 グループ経営推進室長）
09:20–09:35	研修概要・目的・運用の説明	マラ・メドラノ 氏（HCWH SEA GGHH地域連携マネージャー）

09:35–10:15	演習：参加病院の現状共有・期待と優先事項の確認	参加病院 実務担当者
10:30–11:15	ディスカッション：医療分野の緩和策とRace to Zeroの動向	菅原 丈二 氏（特定非営利活動法人日本医療政策機構 副事務局長）
11:15–12:00	講義：CICツールの構造解説とアカウント設定	サンスクリティ・タクール 氏（HCWH データサイエンティスト）
13:00–14:45	講義・討議：Scope 1・2・3および廃棄物・調達データの検証	HCWH SEA 専門家チーム
15:00–16:30	実践演習：各病院の実データを用いたベースライン報告案の作成	参加医療機関 全体ワークショップ
【2日目】 11月23日 （月・祝）		
08:30–08:40	医療の脱炭素化に向けた大学・研究機関との連携と実践支援	ロシニョーリ中森 正代 氏（総合地球環境学研究所）
08:40–09:40	先進事例共有：地域医療機関における脱炭素実践報告 （1. 総合病院岡山協立病院 ／ 2. 医療生協こうせい駅前診療所）	横田 啓 氏（総合病院岡山協立病院 救急部長／みどりのドクターズ 理事） 佐々木 隆史 氏（医療生協こうせい駅前診療所 所長／みどりのドクターズ 代表理事）
09:40–12:00	演習・発表：自院の削減アクションプラン策定および全体発表	参加医療機関 全体
12:15–12:20	閉会挨拶	一般社団法人 日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会
13:30–14:15	医療機関サステナビリティ事例発表およびあそか病院施設見学	櫻井 勇介 氏（伯鳳会グループ 広報室長／大阪暁明館病院 事務長）

報道関係者の皆様への取材案内

本研修では、医療現場における脱炭素化の実態と具体的な算定手法の導入現場を取材いただくため、以下の時間枠でメディア公開を実施いたします。

- **公開対象時間：** 2026年11月22日（日）09:00〜12:00（報道受付開始 08:30）
- **取材・撮影可能範囲：**
  - 開会式、主催者・来賓挨拶、HGPIによる政策解説セッション
  - HCWH専門家によるCICツール解説および、参加28病院の実務責任者がPCを用いて自院データを精査・分析する作業風景

- **個別インタビュー取材枠（12:00〜12:30）：**
  - 主催団体代表（HCWH担当者、HGPI担当者、日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会 代表理事／事務局長）
  - 参加病院の実務責任者（赤十字病院、大学病院、地域中核病院の担当幹部）

- **取材における注意事項（プライバシー保護）：**
  医療機関内での研修につき、参加者が操作するPC画面には各病院の未公開データ（診療統計、調達価格等）が表示されます。画面の接写撮影はご遠慮いただき、会場全景または登壇者の撮影をお願い申し上げます。また、同時通訳（Wordly）の音声を各自のスマートフォンで聴取いただける環境を用意しておりますので、イヤホンのご持参を推奨いたします。
- **取材お申し込み方法：**
  会場設営および動線管理の都合上、取材をご希望の報道機関におかれましては、【2026年11月19日（木）17:00まで】に、下記問い合わせ窓口宛てに電子メールにてお申し込みください（貴社名、媒体名、取材者氏名、参加人数、撮影機材［スチール／ムービー］の有無をご明記ください）。

主催・共催団体概要

- **ヘルスケア・ウィズアウト・ハーム東南アジア（HCWH SEA）**
  医療が環境負荷を削減し、持続可能な社会の拠点となるよう変革を推進する国際NGO。「害をなすことなかれ（Do No Harm）」の原則のもと、世界70カ国以上、2,000超の医療機関が参画するGGHH（Global Green and Healthy Hospitals）ネットワークの事務局運営などを主導しています。

- **特定非営利活動法人 日本医療政策機構（HGPI）**
  2004年に設立された非営利、超党派、独立の民間医療政策シンクタンク。市民主体の医療政策実現を目指し、気候変動と健康（プラネタリーヘルス）を含む重要課題について、グローバルな視点から政策提言活動を展開しています。

- **一般社団法人 みどりのドクターズ（Green Practice Japan）**
  環境に配慮した持続可能な医療を提唱する医療従事者で構成される一般社団法人。臨床現場における脱炭素化、廃棄物削減、持続可能なプライマリ・ケアの普及・啓発に取り組んでいます。

- **一般社団法人 日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会**
  医療・介護現場の脱炭素化を加速させるため、国内主要法人・関係業界が結集し2024年に設立。再生可能エネルギーの導入支援、省エネ推進、環境配慮型マテリアルへの転換を通じて持続可能な医療・福祉インフラの実現を目指しています。

- **総合地球環境学研究所（RIHN）／持続可能な社会を共創する大学等コアリション**
  環境問題の学際・超学際研究を牽引する国立研究機関、および大学病院を含む全国約200大学が参画するカーボンニュートラル共創プラットフォーム。研究知見と医療現場の実践を結ぶ役割を担っています。

- **伯鳳会グループ／社会福祉法人あそか会 あそか病院**
  全国で11の病院や福祉施設を展開し、コーポレートPPAを通じた再エネ導入など先進的な環境経営を実践。本研修の会場となるあそか病院は、地域医療・福祉の中核拠点として機能しています。

本件に関するお問い合わせ窓口（取材申し込み先）

伯鳳会グループ 広報室
担当：広報室 室長 櫻井 勇介（Yusuke SAKURAI）
（兼 一般社団法人 日本ゼロカーボン・ウェルフェア協議会 事務局長／社会福祉法人 大阪暁明館 事務長）

- **所在地：** 〒554-0012 大阪府大阪市此花区西九条5丁目4番8号
  （社会福祉法人 大阪暁明館内）
- **TEL：** 06-6462-0261 ／ **FAX：** 06-6462-0390
- **E-mail：** yusuke.sakurai@osakagyomeikan.com
- **協議会公式サイト：** https://zero-carbon-welfare.or.jp/